# NIE実践報告

1．タイトル：新聞を通して社会を見る眼を養おう

2．学校名

愛知県名古屋市・私立金城学院中学校

3．実践者名（代表者名）

後藤　英一

4．学年

中学校第３学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　41人

6．単元（本時の学習課題）名

死刑制度と裁判員制度

7．目標(狙い)

新聞記事で扱われた様々な裁判例を通して、死刑制度と裁判員制度の実態を具体的に学ぶ。

8．評価の視点

将来の裁判員候補として、死刑制度の是非について、主体的に考えることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

公民的分野の単元「司法」５時間のうちの２時間(教科書：教育出版　資料集：浜島書店)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①　教科書・資料集を使って死刑制度と裁判員制度の概要を説明（１時間）
②・新聞記事を使って実際の裁判例を学ぶ（１時間）
　・裁判員が初の死刑判決を出した裁判
　・裁判員が少年に初の死刑判決を出した裁判
　・裁判員が死刑の求刑に無罪判決を出した裁判
（留意点）新聞の文章を生徒に精読させ、しっかりと裁判の展開を追わせる。結論の確認を急がない。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

裁判員が苦渋の選択をしながら、死刑の可否を判断していることに触れ、人が人を裁くことの難しさに気づく生徒が多い。

12．成果と課題

教科書や資料集の説明からだけではわからない死刑制度と裁判員制度の実態について大いに理解を深めることができた。今後も、様々なテーマで新聞記事を活用し、生徒たちの社会を見る眼を養っていきたいと思う。文字通り新聞は「第２の教科書」である。